「開拓精神を持とう」

市長　佐藤敬治

今までの地方自治体[illegible]りにも、農村は農村、[illegible]は都市という具合にまとまりすぎていた。それに[illegible]つて両者の対立が激しくなり、その結果、経済的に力の弱い農村が弱体化して行く傾向を大きく示したのである。農村と都市との生活の相違、農村文化の後進[illegible]れらのすべては自治[illegible]の構成が進歩性をもたなかつたことに原因があつたといえよう。

○…最近の都市を中心とする、交通、通信の発達が生活経済圏をひろげながらも自治体がそれに呼応しなかつたこと、この矛盾を解決するために「町村合併」が叫ばれ、大館を中心にしてこゝに一町五村の合併が実を結んだことは、まことに[illegible]限りである。[illegible]のことを考えて[illegible]みると、新大館市の様相はまことに多元的であるといえよう。長木の木材、上川沿の果樹、下川沿の杉苗、二井田、真中の米など。これらの基礎産業を基盤として、商工業をよりいつそう盛んにして行くことが、これからの市政の一大指針である。

○…せまい垣、のけて明る[illegible]」こ[illegible]標語で[illegible]村の合併に[illegible]い垣」を取り除い[illegible]のである。これからは「明るいまちづくり」に努力しなければならない。

○…合併後の大館は、地図をみると形が北海道に似ている。北海道における「開拓精神」。この開拓精神をもとにして、市政を科学的に運営するならば、大館の将来は期して待つべきものがある。

× ×

編入町村の紹介

三月一日から既に、長木、上川沿、下川沿、二井田、真中の五村が編入され、三月三十一日には十二所町が合併になりました。十四ヶ町村の大同団結という大きな構想の第一段階として、一市一町五村の合併がめでたくまとまつたことはうれしいことであります。そこで各編入町村のあらましをさぐつてみましょう

市民の楽しき集い

田中橋（真中）

米の宝庫（二井田）

杉の緑りに満ちて

面積四十%の旧長木村

〃長木〃と云つたら、誰れしも長木沢の欝蒼とした、杉の大森林を思い浮べることでしよう。今から三百六十余年前の天正十五年秋田城之介実季が豊臣秀吉に贈つたといわれる秋田杉も又二百二十余年前の寛永十六年に藩主が徳川幕府の江戸城普請用として献上したと記録されている杉板も皆こゝ長木沢より産したものであると云われています。本邦の三大美林の一として、〃長木沢国有林〃の名は広く世に知られています。有名な秋田蕗も一説には長木沢から発見されたといわれています。なにしろ新大館市の四十%を占める広大な土地、そして幽玄な山野の何処かには、或はその昔そんな事もあつたことでしよう。今から凡そ千十余年前にこの地域にあつた四ッ屋村が相馬氏の手によつて開拓されたと記録されているところを見て、相当古くから拓けた村と云えまます。明治十六年に至つて上岱野外六ヶ村と雪沢地区にあつた戸長役場を合併し組合戸長役場としましたが明治二十二年町村制の実施とともに長木村と改称し今日に至りました。

面積＝一三一・四五平方粁、世帯数＝六四〇、人口＝四三五四人

『梨』の産地・上川沿

野菜は大館で消化

米代川右岸に沿つて細長く連なつているこの村は地味水利の便に恵まれているため、米穀は勿論、果樹、蔬菜の栽培が盛んに行われています。殊に中山に栽培する梨は「中山梨」と銘うつて、その品質は極めて高く評価されています。又蔬菜も電、醸熱による温床育苗が盛んで、その栽培技術の優秀さは遠近に知られているところから視察に来る人々が後を断ちません。生産物の多くは大館市で消化されていますが、遠くは鹿角弘前方面にまで販路を持つています。

この村は、古くは奥羽藤原氏三代隆盛の頃、同氏の被官河田氏が贄の柵に拠つて統治した頃から、次第に開拓部落を形成した模様です。藤原氏衰退の後、鎌倉、室町、織豊の時代を通じて、支配関係に多くの変遷がありました。支配者として就中有名な人に浅利氏、秋田氏があります。慶長七年佐竹氏が遷封され久保田城主になるに及んで、この地方は佐竹氏に任ぜられた大館城代の支配下にあつた訳けです。

明治維新による廃藩置県の後、明治二十二年の町村制実施によつて扇田村戸長役場組合であつた中山、山館餌釣と片山村外四ヶ村戸長役場組合に属していた小館花、根下戸と池内の六ヶ村を合併し上川沿村と改称して今日に至つています。

面積＝二八・一三平方粁
世帯数＝四四三、人口＝三、〇〇二人

繁華街の大町

大滝への道

千二百年前から開拓

＝下川沿＝由緒ある八坂神社

長木川、下内川は此所で米代川に合流し能代を経て日本海へと流れています。北秋田郡では最も古いのがこの村です。奈良朝、和銅七年（千二百年前）の頃既にこの村の片山地域が開拓され八坂神社が創建されたと記録されているようです八坂神社と云えば片山にはこんな云い伝えと習慣があります。

神代の昔、素佐男命が故あつて国を追われ夜見の国、御頭山からキウリに乗つて出発し、こゝ片山に漂着して一命をとりとめたと云うことから、命（みこと）を祀る片山の人々は、大恩あるキウリを喰つては神罰があたると云うので忌み嫌い今でも食べない人があるとのことです。

慶長七年に佐竹氏が水戸から秋田へ遷封されるや、その支配に属する大館城代の支配下におかれています。明治二十二年町村制の施行によつてこの地域にあつた二つの戸長役場を統一し、下川沿村と改称して今日に至つています。

面積＝一四、二七平方粁
世帯数＝五九〇、人口＝三、五三五人

贄の柵にまつわる歴史

二井田は米の宝庫

贄の柵は藤原泰衡が家臣川田次良行文を置いて守らせた所であり、又泰衡が次郎行文に殺された所でもあります。

この出来事は今から凡そ七百六十余年前のこと泰衡が義経の首を鎌倉へ献じたわけですが、頼朝はは義経を庇護したというかどで泰衡追討の兵を起し、本拠である平泉に迫つたので泰衡は事の叶わぬを悟り、三代の栄華を極めた居城を焼き捨て、川田の[illegible]に逃れました川[illegible]賞目[illegible]に討たれたのでした。一説には泰衡は川田の変心を悟り、ことの叶わぬを知つて、三十五才を一期として自害したとも言われています。兎に角歴史に有名な贄の柵はこゝ二井田にあるわけです。

藤原氏衰退後、浅利氏も独鈷の城に拠つてこの地内二井田、本宮、比内前田、大子内、下川原などにそれぞれ部将を置いて支配した模様です。

江戸時代に入り佐竹氏遷封の後、二百六十余年間はその支配下で比較的平穏な時代を経過し、明治の廃藩置県、明治二十二年町村制の施行により二井田、比内、前田、大子内、下川原の五ヶ村が統一されました。

面積＝二六・七一平方粁、世帯数＝五一七
人口＝三、五九六人

真中は大館盆地の西端

静かな農村地帯

北秋田郡の略中央にあるところから、真中と呼ばれるに至つたと云われています北は上川沿、東南は二井田西は早口、旧栄村に隣接し海抜四十二米、大館盆地の西端で、北に米代川、西に引欠川を帯び、出羽丘陵の一脈北から[illegible]走つて静か[illegible]隆盛の頃は、その支配下にあつたと云われています。明治十六年真中村（赤石、櫃崎、大披、小袴、出川を含む）板沢村組合役場を設置しましたが、明治二十二年の町村制実施とともに両村を統一して真中村と改称しました

面積＝一四・二八、世帯[illegible]三、[illegible]口＝二[illegible]

大館と前後衛の十二所

千百年前から大滝温泉

温泉の発見にはこんな云い伝えがあります。一羽の病鶴が舞い下りて数日入浴しました。湯の効き目で快癒した鶴はうれしそうに何処かへ飛び去りました。これが端緒になり、これに因んで鶴の湯があるのだと――しかし大同二年、焼山が噴火して大滝温泉が湧出したと記録されていますから、それ以来一千百年余の歴史を持つていると云えましょう。

秋田犬しろと猟師左多六につながる老犬神社の云い伝えなども、県内広く知られているところです。今から凡そ八百数十年前、藤原泰衡が亡び南部氏が起つや、この附近は南部と秋田の激戦地でありました。慶長七年佐竹氏が秋田藩に遷封されてから南部に対する抑えとしてその臣である茂木氏が累代この地に居城したと云われています。明治五年の大小区制改正の頃は現在の上川沿村中山、東館村独鈷は十二所に所属していました。明治二十二年町村制の実施によつて十二所、道目木、猿間、葛原の六町村を合併、十二所町として発足しました。

面積＝六八・二五平方粁
世帯数＝一、〇〇五、人口＝五、九二七人